

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 460 号	氏名	寺門 万里子
学位審査委員		主 査	篠原 一之
		副 査	小路 武彦
		副 査	北岡 隆
論文審査の結果の要旨			
1 研究目的の評価 本研究は、難聴やめまいの治療に有効なグルココルチコイド(GC)の作用機序を明らかにするため、ラット内耳の各部位に於けるグルココルチコイド受容体 (GR) 並びにグルココルチコイド変換酵素である 11β-hydroxysteroid dehydrogenase (11β-HSD)1 型及び 2 型の発現を検討したもので、目的は十分に妥当である。			
2 研究手法に関する評価 本研究では、新生仔及び成熟雌 Wistar ラットの内耳組織及びその培養組織を用い、パラホルムアルデヒド固定パラフィン切片を作製後、GR 及び 11β-HSD1 型及び 2 型に対する特異抗体を用いて蛍光免疫組織化学的に局在を検討した。また、特にコルチ器、血管条及び前庭部位に関しては、当該部位から抽出した RNA を用いて、それらの mRNA 発現も RT-PCR で検討しており、研究手法も妥当である。			
3 解析・考察の評価 以上の検討の結果、成熟内耳では、GR は有毛細胞、血管条上皮や神経に広く存在することが判明し、GC による治療標的が明らかとなった。また血管条では GR 及び 11β-HSD1 が出生直後から発現しており、GC の聴覚発生への重要性が示唆された。これらの研究結果と考察内容は高く評価できる。			
以上のように、本論文は内耳に於ける GC の作用機序を理解する上で貢献するところ大であり、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。			